

会員投稿 『北欧（ノルディック）ロードデンドロン  
シンポジュームに参加して』（その1）熊谷市 鈴木 英雄

## まえがき

『過般北欧の国ノールウェーへ行って参りました処、事務局からの、お話で菱の実会の会報に、何か報告文を書いて欲しいと、ご要請を頂きました。私は植物関係の或る団体に関係していますので、その会報用に報告文を書きました。内容は極く、一般的で専門的なことは、殆ど書いていませんのでこれを流用願えればと勝手なことを考え、事務局に其の旨、お願ひを致しました。従って勝手ですが、そのお積もりでお読み頂ければ、まことに幸いでございます。』

以上

ました。総勢 21名

去る5月下旬から6月上旬にかけて2週間余り、北の果ての国へ旅し、頭記のシンポジュームに日本からはただひとりの講師として参加した。シンポジュームはノルウェーの古都で、同国第2の大都市であるベルゲン市の郊外で開催された。北欧というと、デンマーク、スウェーデン、フィンランド、アイスランドそしてノルウェーの5カ国を指す。私は過去にデンマークやスウェーデンを2度に亘って訪ねているが、ノルウェーへの旅は今回が初めてである。ノルウェーは日本と略々同じ位の大きさの国。但しその総人口は430万。首都であり、国最大の都市オスロが50万、国第2の大都市であり古都でもあるベルゲン市はなんと、その人口は21万なのである。日本からベルゲン市に辿り着くのは少々大変である。直行の飛行便がない。私の場合はオランダのアムステルダムで乗り換え、長い待ち時間があって、それからごく小型の飛行機に乗せられて、やっとのことで、小さなベルゲン空港に辿り着いた。日本からオランダへ向かう飛行機は、ベルゲンの近くを通過するけれども‘途中下車’という訳にはいかず、遙か南のアムステルダムまで行ってしまうという風になるのである。実は3年余り前のこと、ノルウェーのベルゲン市に住む友人でこの国のシャクナゲ協会の役員であり、最近ノルウェーで発行された“みんなのためのロードデンドロン”という本の著者でもあるギルバート氏からシンポジュームでの講演を依頼されたのが、そもそもこの地を訪れることになった発端である。

（来月号に続  
く）

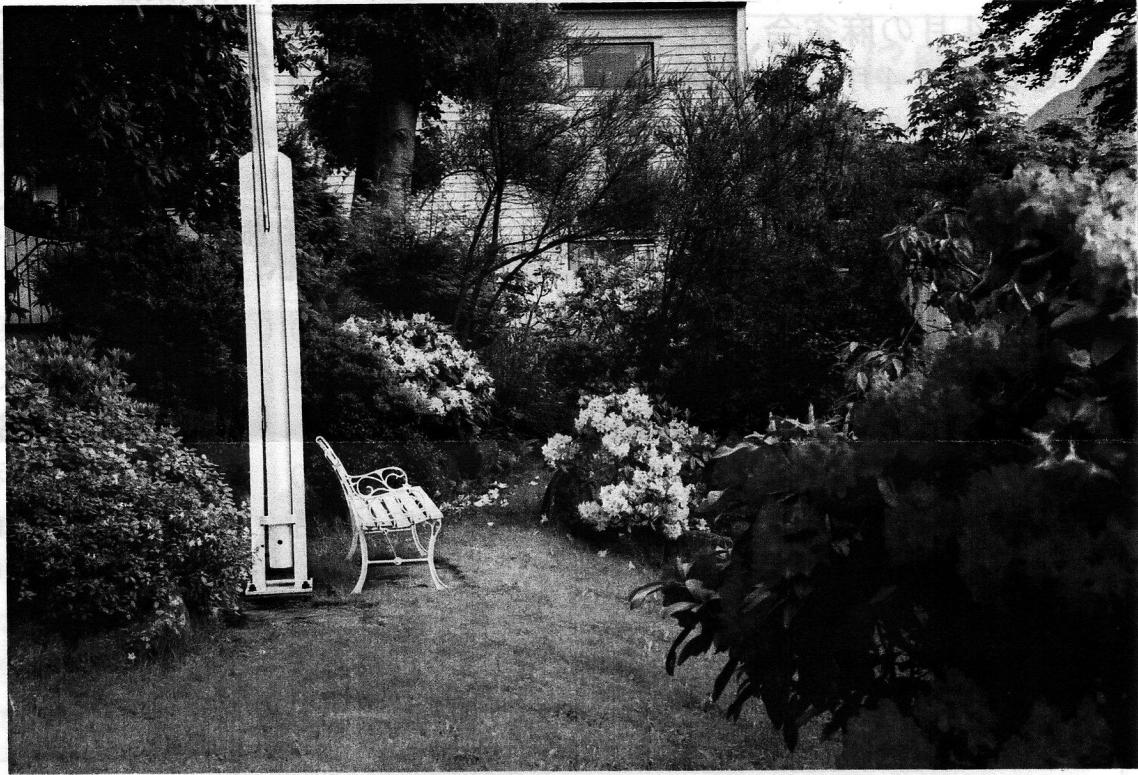
ノルウェー  
ベルゲン市の  
入江にある波  
静かな海



会員投稿 『北欧（ノルディック）ロードデンドロン  
シンポジュームに参加して』（その2）熊谷市 鈴木 英雄

このシンポジュームが開催される時には、私は84歳もの高齢に達している。生きていたとしても、果たしてこのような遠い北の果ての国への旅が実現できるかどうか自信がもてないので、この招きを一時は辞退したものの、たつ

〈ホームステイした友人宅の庭〉



ての要請でともかく引き受けてしまった。時は流れ、知らぬ間に、いつしかその時がきてしまった。出かけるよりほかに道はない。オランダのアムステルダムでの乗り換えの待ち時間を含めると、ベルゲン市の往路は計22時間、帰路は21時間をしてしまった。この季節のベルゲン市は殆んど24時間日が暮れない。白夜に近い状態で、現地ではなかなか眠れず、長時間の空の旅の時差ボケから脱出できないまま、日々を過ごすことになってしまった。話は元に戻るが、ベルゲン市の小さな空港にアムステルダムで乗り換えた小型の飛行機で辿り着いた私は国内便で旅したときのように個人の入国の手続きもなく、空港の出口へ出てしまった。そして出迎えの友人の車に同乗し、しばらく滞在することになる彼の家へと向かった。驚いたことには空港の建物を出た途端、私の目に飛び込んできたものは、道の両側にずっと無数に植えられたシャクナゲの木々であった。町へ出ても同様。個人の住宅の庭も、公園も、墓地でも、大学のキャンパスでも、何処へ行っても、シャクナゲ、シャクナゲである。この町の別名は‘シャクナゲの町’、宜なる哉である。私は、今日まで、ロードデンドロンに関係の深い世界の多くの町々を旅してきたが、このようなシャクナゲ、シャクナゲの町には出会わなかった。ある時この町で、最近建築されたモダンなコンサートホールへクラシックの鑑賞のためギルバート夫妻に招かれた。この古都には珍しいモダンな建築である。コンサートでは、その演奏中私は友人のグナー・ギルバート氏とその夫人のインゲビヨルグさんの間の席に座して、深い眠りについてしまった。これは大失敗だったと今、後悔しているが、夫妻は私に何も言わなかった。今私は夫人の名をインゲビヨルグと書いた。すなわちその綴りは Ingebjørg。彼女を呼ぶ場合、すぐにこの名が出てこず、最初は戸惑ったものである。ところでこの広大にしてベルゲン市には珍しい近代的建築物コンサートホールの周りにも高さ2メートルくらいのシャクナゲの生垣が延々と建物を取り囲んでいた。（来月号に続く）

(2) No. 133

新会員紹介 今井 智久さん

(平成15年12月16日退職)

〒370-0411 新田郡尾島町亀岡86-3 電話 0276-52-2070

平成15年12月16日付けで三菱電機ホーム機器を退社し、このたび菱の実会に入会させていただきました。昭和34年に三菱電機入社以来、三菱電機ホーム機器を含め44年と10ヶ月という長い会社生活を送ってまいりました。

定年後、3ヶ月ほどたち新しい自分の生活にも慣れ始めました。いろいろなことを楽しみながらゆとりある定年後の生活をすごしたいと思っています。今後は主に庭弄り、旅行などの趣味を楽しみながら、ボランティアなどの新しい活動にも挑戦したいと考えています。今後とも御指導よろしくお願ひいたします。



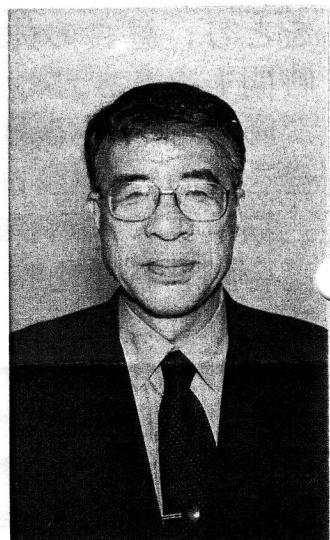
新会員紹介 椎名 美雄さん

(平成16年3月31日退職)

〒370-0332 新田郡新田町中江田273-8 電話 0276-56-7694

この度、少々早めですが、菱の実の会に入会させて頂きました、椎名 美雄です。  
私の履歴を紹介させて頂きます。

1960年、菱電機器株式会社に入社、表面処理係、プラスチック、を経て、1988年本社ビル工にて、オーダー型のエレベーター、エスカレーターの現場主任担当、当時の思い出は、東京都庁の一部でも関係した仕事が出来た事と、新宿三丁目伊勢丹にエスカレーター30台、の工事が出来たことです。1992年より、営業部門で温水器拡販Gで従事させて頂きました。主な担当地区は、東京電力管内、LT中部、LF九州、と駐在の仕事が多く、社内の所属の期間は、東京都内の設計事務所訪問SP作業で、末年の2年間のみ、社内勤務だったようです。今になって考えてみると、全国各地の訪問が出来、多くの人と出会いが会った事と時々は、おいしい郷土料理など頂けたことが、思い出です。今後は、第二の人生、これまで出来なかった事に挑戦し新しい自分を探して、楽しみながら行こうと思っております。皆様、これからも、ご指導宜しくお願い致します。



会員投稿 『北欧（ノルディック）ロードデンンドロン

シンポジュームに参加して』（その3）熊谷市 鈴木 英雄

ノルウェーは北極に近い北の果ての国、そして極寒の国でもあるはずである。ところがベルゲン市やオスロ市は、この国の南部に所在し、それに遠くメキシコ湾から流れてくる暖かい海流のおかげで気候が温暖なのである。ベルゲン市の年間気温を滞在中に把握することを失念してしまったが、オスロの月別の平均気温が分かっているので、その一部を抜粋してみると次のようになる。

2月	3月	6月	7月	8月
-3.3°C	0°C	15.6°C	17.8°C	16.1°C

但しオスロではシャクナゲはベルゲンのようにはよく育たないと聞いた。

私が滞在中ベルゲン市では、よく小雨が降った。ところがベルゲン市の地盤は岩石である。道路工事の現場を見ても、ほとんど土地の表面は岩盤でできているのが判る。山へ登っても、その表面に岩が露出している。庭の上に少々の土があった。そこに植物が自生しているといった感じである。土壤は酸性で水はけは殊の外良好と見た。何処へ行っても植物への灌水装置は見受けられなかった。すると、空中湿度は十分存在し、それに水はけは良好ということになる。即ち、放っておいてもシャクナゲはよく育つという方程式が成り立つように見受けられた。

私がホームステイさせていただいたギルバート氏の自宅の様子を少々紹介させていただこう。彼の家は小高い山の中腹よりやや下方に所在しているが、それでもベルゲン市の町並みを眼下に見下ろす眺望の優れたロケーションに所在する。門から玄関まで20m位。その通路の両側には多数のシャクナゲの原種や交配種が植えられている。向かって左側には3本の巨大な*R.catabiense*(カトウビエンシー)が植えられていた。樹高約3m、根元の直径は30cmはあると思われる巨木。原産地はアメリカ東部。薄紫色の花を咲かせる。私がこの家に到着したときには、未だ蕾が固かったが、帰国する頃には、ようやく開花し始めていた。

この町に初めてロードデンロンがもたらされたのは、約150年位前。ドイツ経由で入荷したという。前記のカトウビエンシーの巨木のすぐ向こうには、高さ15m、真っ白に塗装された国旗掲揚塔があり、私がこの家に到着したときには、歓迎の意味を込めて、その掲揚塔にノルウェーの国旗を高々と掲揚してくれた。更に、その先には樹高2m位のシャクナゲが何本も植えられており、赤やピンクや黄色の花をそれぞれ惜しみなく咲かせていた。ここから家の裏側に回り込むと、広い青々とした芝生が広がっている。芝生の中央にはテーブルや椅子が置かれていて、ここからベルゲンの町並みや彼方の山を眺めながら飲み物を飲んだり、食事をしたりする事ができるようになっている。この広い庭にも、その隅々には大きなシャクナゲの木々が植えられ、それぞれ華麗な花を惜しみなく開いていた。ここから山側に向かって斜面を登り、庭の上方や家の山側に回り込むと、そこはシャクナゲの林であった。

シャクナゲの古木と友人の孫の「オスカ」



(来月号に続く)

申込みは両コンペ共に下記の通り

締切り時 6月30日(水) 橋本52-4436、萩原56-3852  
坂田25-8732、石尾52-2636

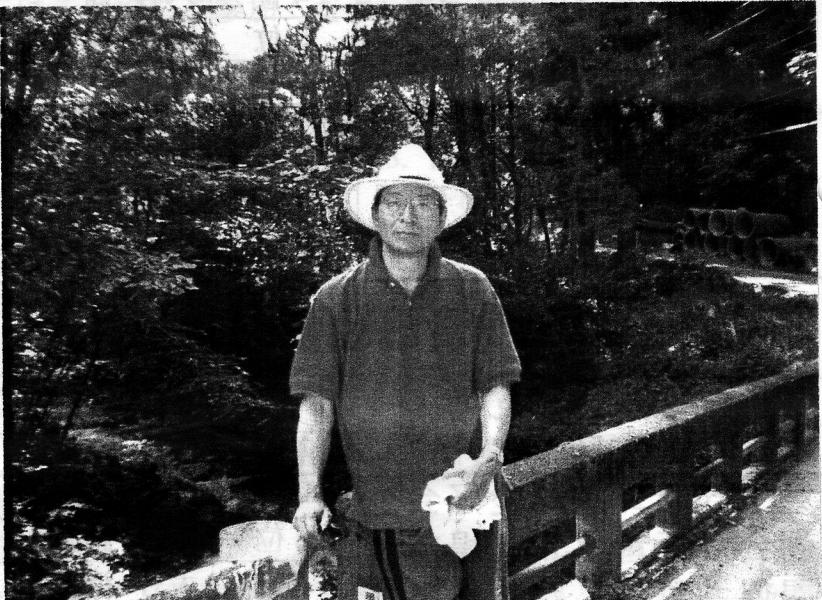
(注意)\*両コンペ共に、定員になり次第締め切ります。

\*菱の実会コンペは、5月19日板倉にて申込まれた方は申込み不要です。以上

新会員紹介 大竹 操さん (平成9年3月15日退職)

〒373-0827 太田市高林南町675-36 電話 0276-38-1574

1960年 馬電入社以来1984年まで馬電にて24年間技術部門（暖房器、電熱器、ふとん乾燥機等の開発・設計）に在籍、1984年MHK分社に際しMHK出向、創立から2003年6月末までの19年間技術、品証、VAと経験し無事卒業いたしました。会社生活43年あまり、諸先輩をはじめ関係の方々には大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。それから早や10ヶ月を経過し雇用保険も切れ年金暮らしに突入しました。これから的人生を健康で楽しく有意義に過ごしていきたいと思い、諸先輩方のご指導ご厚情を賜りたく入会させていただきます、今後ともよろしくお願ひいたします。

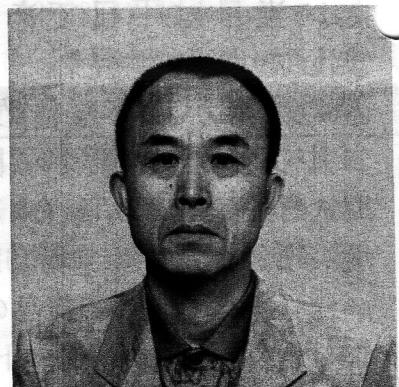


新会員紹介 小林 昌樹さん (平成16年3月30日退職)

〒360-0245 埼玉県大里郡妻沼町小島2932-41 電話 0276-38-0964

平成16年3月30日付きで定年退職し、菱の実会に入会させて頂く事になりました、小林ですよろしくお願ひします。

昭和34年に菱電機器に入社し、途中社名が三菱電機群馬製作所に変りましたが45年間、定年退職まで会社生活を無事に終えることができました。定年後は趣味で収集した、コインセットやメダルの整理やコンサート鑑賞や旅行に積極的に参加し、又会社生活であまりお手伝いできなかった地域社会への奉仕やボランティアに参加して、充実した余生が送れるよう楽しみたいと思いますのでよろしくご指導をお願いいたします。



会員投稿 『北欧（ノルディック）ロードデンンドロンシンポジュームに参加して』（その4）熊谷市 鈴木 英雄

この家の敷地は日本流に表現すると500坪余り。夫婦共にシャクナゲへの関心は極めて深く、遠く中国南部の雲南の山々へ1ヶ月もかけてシャクナゲの探検行にも出掛けている。彼がシャクナゲを植えているのは、この自宅の庭だけではない。向かい側の山の山頂に立って彼が住んでいる山越しに向こうを眺めると、そこには、入り江が入り込んでいて、いくつかの湖水があるような地形が形成されている。

[次のページへ続く]

(3) No. 134

そこに2つの比較的大きな島があり、そのひとつが彼所有の島だという。なかなか大きな島のようである。この島には、彼のコレクションのシャクナゲが多数植えられているそうであるが、彼が私をこの島に案内する予定の日、彼は少々体調を崩し、結局、島へ行くことはできなかった。

私が滞在した彼の家の建物について少々紹介させていただこう。この家は今から百年近く前に建築されたものだそうで、近隣の家と皆同じような外観を呈している。何れも元々古い家のようにあるが、その維持管理が行き届いているようで、小綺麗な美しい家並みを形成している。そして、どの家の庭にも、やたらとシャクナゲが植えられ美しい花を咲かせていた。私の友人の家は地下一階、地上二階、その上が屋根裏で物置になっている。各階共、同じ間取りであるが、私には1階を全部開放して当てがわかった。寝室の外、同じ大きさの通し部屋が3室、それにサンルーム1室で、各部屋には、庭で咲いたシャクナゲの花が惜しみなく切花として花瓶に生けられていた。外に、台所と大きなバスルームもある。バスルームは広く、8畳は充分あり、フロアは白いタイル張りで、電気の床暖房、そして壁面は全面、鏡になっている。ここで私にとって大変困ったことがあった。部屋中をいくら眺めても浴槽が見当たらないことである。西洋には、よくこのようなバスルームがあるけれども、その場合は比較的広いシャワーの場所が設けられている。ところがここでは、シャワーはあるけれども、部屋の隅の三角の場所を利用したごく小さな三角形のガラス部屋がシャワー室になっていた。

身体障害者で腰の曲がらない私には、このシャワー室は使用が難しいので、結局、時折2つある洗面所の湯で身体を拭くことになってしまった。但し、床暖房のある広々としたバスルームは快適であった。2

階には次男夫



[1階のフロアーの一部]

婦と5歳何ヶ月かの男児とその弟の3才何ヶ月かの同じく男児が住んでいる。そして螺旋状の階段が玄関の近くと、家の裏側の2ヶ所に何れも家の中に屋根裏まで取り付けられている。大変便利な配置である。遠い異国からの客が到着したというので、まず最初に2人の男児が現れた。そのうちの3才の男の子は、私を目の当たり見るなり、大声で泣き出し、2階へ逃げて帰ってしまった。予測しなかつた見慣れない東洋人を見て驚いたのであろう。しかし、その後怖いもの見たさとでもいうのか、この3才の男の子は、毎朝、私の寝室から一番遠く離れた部屋に降りてきて、私の様子を伺うようになった。この子の名はオスカ、やがてだんだん親しくなっていった。帰国後、友人の家へ国際電話をしたところ、“ヒデオ”は一体どこへ行ってしまったのかとしきりにオスカは私の友人に尋ねているそうである。

新会員紹介 柿沼 忠次さん

(平成15年9月15日退職)

〒370-0351 新田町大670-2 電話 0276-57-1787

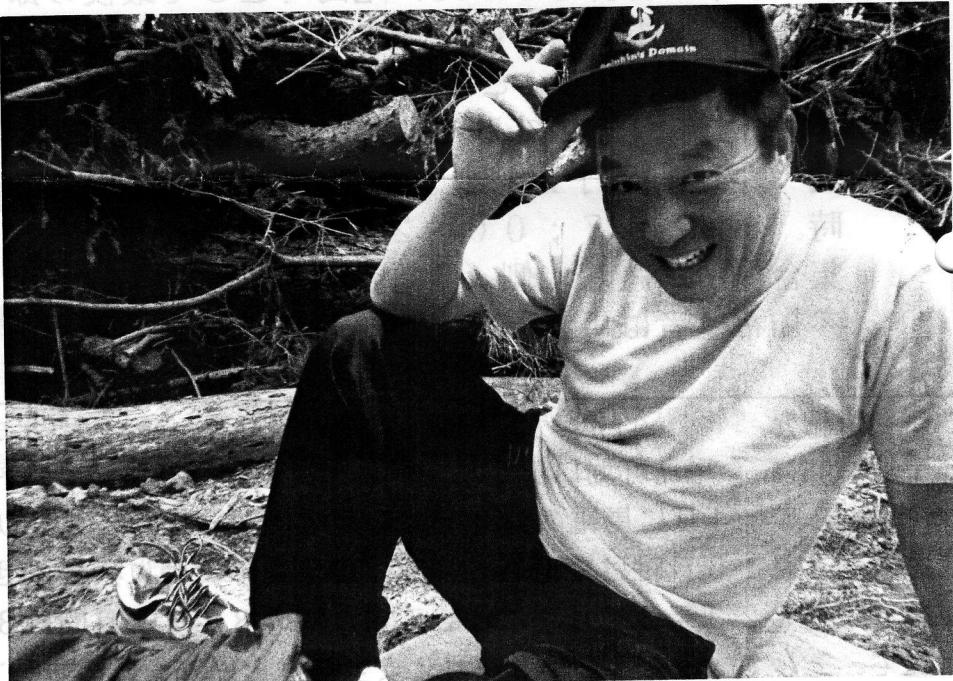
平成15年9月15日付で、三菱電機のお客様相談センター（本社）を退職し、菱の実会に入会させて頂く事になりました。柿沼です。よろしくお願ひ致します。

私の40年間の思い出は、単身赴任や出張が多く、楽しみながら会社生活が過ごせました。石油機器（石油テーブル・石油給湯機）では、九州・久米島へ、石油ファンヒーターではA Tタイプ～Hタイプまで、説明員として全国へ赴きました。

深夜温水器の営業では、九州・関西・東北・広島と、各地で活動致しました。その節、諸先輩方をはじめ、関係の方々には、大変お世話になりました。

56歳11ヶ月で退職し、6ヶ月間は次の仕事に対しての充電期間を考え、のんびりと過ごしました。16年4月1日付で、国民年金推進員として、太田社会保険事務所に勤務することになり、今は毎日が勉強の日々です。充実した生活を送っていきたいと考えております。

今後とも、ご指導を宜しくお願ひ致します。



## 会員投稿 『北欧（ノルディック）ロードデンンドロン

シンポジュームに参加して』（その5） 熊谷市 鈴木 英雄

ある朝、友人のギルバート・グナーとその夫人のインゲビヨルグと、そして私は早起きをし、早々に朝食を済ませ、冬装束をしてベルゲンの列車の駅へ向かった。そして北へ向かう列車の客となった。列車の中は広く、客数もまばらである。走り始めた列車の右側の車窓にはベルゲン港からの入り江の延長が細長い湖水のように延々と続く。そして、次第に山岳地帯へと列車は向かっていった。フィヨルドというのが世界のあちこちに存在するが、このベルゲン市やその周辺に存在するフィヨルドは世界的に有名で、一見、細長い湖水のように見えるけれども、実際は海の入り江の延長で、塩水である。特に山岳地帯の切り立った断崖と断崖の間のフィヨルドは、波もなく、流れもなく、エメラルド色の水面は実に美しい。平地でも山奥へ行っても、フィヨルドにはかもめが群れ飛んでいる。海の魚がいるからであろう。この地のフィヨルドは水深の深いところでは1300mもあるそうである。

やがて、われわれの列車は山岳地帯の峠の駅で停車し、ここで列車を乗り換えることになった。列車から降り立ったプラットホームは屋根もなく寒い。実に寒い。ここは未だ冬である。山々には残雪があり、高い山には悠久の氷河が存在する。ここで乗り換えた別の列車は、客をすべて乗せると、発車し峠を下り始めた。（次のページへ続く）

山岳地帯の山々の間を縫うように下っていく。走る列車の車窓から眺められる山肌には、次から次へと長く白い滝が、山頂から流れ落ちるのが遠望される。その落下の長さは何百米もあることであろう。私は外国

から日本を訪れる客を案内



列車乗り換えの峠の駅（6月）

する時、滝を見つけると、誇らしげに説明する。これは有名な‘華厳の滝です’とか言つて。但し、ノルウェーからの客には、滝があつても、そしらぬ顔をして、通り過ぎたほうが無難。さもないと恥をかくことになりそうである。暫くして我々の列車は、山中で突然停車した。駅もなく、何の建物も見当たらない。そこには巨大な瀑布が水しぶきをあげて流れ落ちているだけである。10分間の停車というアナウンスがあり、乗客が降り立つための木製のデッキが設けられていた。すると、彼方の滝下の岩かけに赤いレースのドレスを纏った女性が突然現れ踊り始めた。何処からともなく妙なる音楽が流れてくる。とても簡単に辿り着けそうもない彼方の岩場での美女の舞である。観光客のためのアトラクションであると思うが、神秘的であった。再び我々は列車の客となり、更に山を下る。やがて眼界が開け、終着駅に到着した。ここは瑠璃色の水を満々と湛えた静かなフィヨルドの船着場であった。ちょっとした平地があり、木々の新緑が目にしめる。フィヨルドの遊覧船の待ち時間が1時間ばかりあるというので私たちはこのレストランで昼食をとった。やがて私たちが乗船する遊覧船が到着した。予定していた船よりも小型のものであったので、私たちは少々がっかりしたけれども、ともかく乗船した。ここから本格的なフィヨルドの旅が始まる。ベルゲン市の方向に向かって下るのである。巾200m位のフィヨルド。両岸は切り立った岩山、地表に僅かに堆積した土にしがみつく様に木々が育っている。山々には白雪があり、氷河がある。我々の遊覧船のまわりをカモメが群れ飛んでいる。波静かな山中の入江であり実に神秘的であった。途中、処々には、岸辺に緑の平地があって、船着場になっている。時に山中や岸辺に2軒か3軒の住宅らしき建物が散見されるが、そこに暮らしている人々は一体どうして暮らしているのかと訝しくなる。ここでもフィヨルドの両側の山々には、無数の滝があり、何百米かを垂直に流れ落ちている。時には巾の広い大きな滝があり、フィヨルドに流れ落ちる前に、緩やかな麓の平地で川となり激流となつてフィヨルドにそそいでいるものもある。

(来月号に続く)

## 第36回(夏季) グラウンドゴルフ大会と日帰り旅行のご案内

国民宿舎「サンレイク草木」に、(財)日本グラウンドゴルフ協会認定のコースで行ないます。送迎バス付きで、グラウンドゴルフ、昼食、温泉三昧を楽しんでください。今回は、夏季グラウンドゴルフ大会となります、賞品は多数用意しておりますので、皆様のご参加をお待ちしております。

1. 日 時：平成16年8月24日(火)

2. 会 場：(財)日本グラウンドゴルフ協会認定コース

国民宿舎「サンレイク草木」TEL: 0277-95-6309

勢多郡東村大字草木1654-1

3. 参加費：3,000円 当日徵収いたします。

(内、500円は、グラウンドゴルフ大会費とします)

4. 申込み：8月18日(水)までに、事務局(0276-52-3874)または下記担当幹事まで  
村川忍(0276-52-3834) 小此木光二(0276-56-0512)

5. 予 定：会社集合 8時15分 送迎バス出発 8時30分  
宿舎到着 10時00分 バス宿舎出発 15時00分  
会社到着 16時30分 表彰式 16時30分～

注1：サンレイク到着後、GG大会、終了後入浴、昼食となります。

注2：表彰式は会社到着後、組合事務所で行ないます。

会員投稿 『北欧(ノルディック)ロードデンドロン  
シンポジュームに参加して』(その6) 熊谷市 鈴木 英雄

2時間程、この美しいフィヨルドの船旅を楽しんだ私たちはある船着場に到着した。ここも未だノルウェーの山岳地帯である。下船した私たちは、ここでバスの旅に切り替え、曲がりくねった細い山道をバスは走る。バスの車窓から見る風景は船とは違った趣が、途中、山奥には珍しい大きなホテルに辿り着いた。乗客は全員ここで一時的に下車する。やがて休憩を終えた私たちは、再びバスの客となり、次の目的地へと向かった。そこは列車の駅。ここからは列車でベルゲンへ向かって南下し、暫くしてその夜ベルゲンに帰着した。夜といっても、それは時間のこと。戸外は未だ昼のように明るい。

ここでベルゲンの町について、もう少しご紹介をさせて頂こう。何故ならば、ベルゲンは本当に美しい古都だからである。すべてが古くて、美しい。千年近く昔に立てられた美しい教会が現存したり、ハンザ同盟のドイツの商人たちが、何百年も前に埠頭に建築した切妻の屋根の18軒の木造の家並とか。この木造の巨大な家々は、今も尚レストランや土産物販賣所、いろいろな用途に使用され、ユネスコの世界遺産にも指定されている。

ベルゲンの町は、その両側と東側にある7つの山によって巨大な衝立のように囲われている。それぞれの山の高さは700mから800m位。その囲い中の平らな谷間の様なところに町が存在する。そして赤い屋根と白い壁の住宅が、これらの山々の中腹の緑の木々の間に整然と横に並んで建てられていて、メルヘンチックな雰囲気をかもし出している。

山々の衝立の南側の空いているところは、波静かな入江の港になつていて白亜の豪華な客船が停泊していることが多い。一方、北側の空いているところは、無数のフィヨルドが山岳地帯に向かって伸び



ユネスコの世界遺産に登録された街並み

ている。そして町の至るところにも細長い湖水の様な入江が入り込んできている。繰り返し申し上げるが、本当に美しい古都なのである。

ノルウェーという国は、北海油田や天然ガスの関係で、裕福である。国民の福利厚生も行き届いている様に聞き及んでいる。職場は大抵、朝 9:00 に始まり、午後 3 時半に退社ということになっており、午後 3 時半を過ぎると車のラッシュが始まる。羨ましい生活である。只一つ大きな欠点が存在するように思うが、それは物価が高いこと。私の友人やその夫人は冬季 4 ヶ月余りを寒さを避けて、毎年地中海の有名な観光地であるマジョルカ島でホテルに宿泊し過ごしている。だが、その方が生活費も少なくて済むそうである。

観光案内に多くの紙面を使ってしまった様だ。遅くなってしまったが、この辺で本題のノルディック国際シンポジュームについてご報告させていただこう。シンポジュームは私がこの地に到着し、5 日ばかり過ぎた 5 月 31 日から 6 月 3 日にかけて 3 日間、ベルゲン市の北側の郊外にあるミルド樹木園で開催され、6 月 2 日に終了した。

シンポジュームは 5 月 31 日午前 8 時から 10 時の受付終了後、すぐに開催された。各国からの参加者約 130 名。ノルディックの国々以外からは、元ソ連の国ラトビア、そして英国、カナダなどからの参加者である。一番遠い国からの参加者は日本からの私であった。昨年の秋、私はアメリカのシアトル市や、カナダのバンクーバー市で講演を行ったのが、その時、会場でこのシンポジュームへの参加を含めたヨーロッパへのツアーのパンフレットが配られていた。しかし、結局、誰もこれらの地からの参加者はなかった。約 30 名の申込みがあったそうであるが、その後キャンセルになったとのこと。理由は不明。講師は 10 名、その殆んどがノルディック各国からの学者。スピーカーとして国際的に有名な人物といえば、スコットランドのケネス・コックス氏であろう。

(来月号に続く)

## 第36回(夏季) グラウンドゴルフ大会と日帰り旅行の報告

### 村岡 勉さん優勝

今回は国民宿舎「サンレイク草木」の(財)日本グラウンドゴルフ協会認定コースで、8月

24日(火)に開催されました。今回は総勢24人の方々の参加をいただき、盛大に開催されました。

迎えのバスが事故渋滞に巻き込まれ、出発時間がやや遅れるなどのアクシデントがありましたが、現地は絶好のグラウンドゴルフ日和(曇り)となり、涼しい中での大会となりました。

順位	氏名	HD	スコア	1打	2打
優勝	村岡 勉	0	83	1	11
準優勝	平賀 一	0	84	2	11
3位	井上 征光	0	91	1	7
4位	村川 忍	0	92	1	7
5位	白井 美沙子	0	93	1	9



### 会員投稿 『北欧(ノルディック)ロードデンダロン

シンポジュームに参加して』(その7) 熊谷市 鈴木 英雄

グレンドインク・ナーサリーのピーター・コックス氏の子息で、彼はロードデンダロンのプラント・ハンターとして中国南西部の雲南省や四川省、更にはチベットなどの山岳地帯を度々踏破し、今やロードデンダロンのプラント・ハンターとして国際的に有名な人物であり新種も多く発見している。

様々な国からの講師が講演するが、一体、何語で講演がなされるのかという問題に触れてみよう。北欧の国々は、それぞれ、その母国語は異なるけれども、余り大きな差異はないらしい。大抵お互いに理解できるそうである。創造するのに、多分日本でいえば、東北弁や関西弁の相異なのではないだろうか。加えて、英語は容易に理解されるから、大変便利である。ノルウェーでの例を見ると学校に上がらない幼児は通常、英語を耳にしても理解出来ない様であるが、青年や壮年層では、私が体験した限りではネイティブ・スピーカー(英語を母国語とする人々)と殆んど同じ様に流暢に英語を話す。私がホームステイしている友人のギルバート氏も、その子息たちも、全く同様である。ギルバート氏はドイツやフランスに留学していたこともあり、英語の外、独・仏語共に堪能の様である。このような事実を体験すると、私は日本の現状が、もどかしく、不思議に思えてくる。学校教育のどこかに重大な欠陥が、潜んでいるのではないかと。このような訳で、シンポジュームはノルディック各国の言葉または英語で行われた。大変便利な国である。講師によっては、英語で話していて、途中から母国語に変わるものもいる。

(次のページに続く)

私は日本のロードデンドロンについて英語で1時間講演した。(講演の制限時間は厳格に規制される。)私は今まで、海外での講演で英語で話すときには、時折、アメリカなどでもよく使われるジョークを引用することがある。今回も、このジョークを試したくなつて試してみたところ、大半の聴衆が笑ってくれた。国によっては殆んど笑ってくれないところもある。いつだったか、アメリカでの講演でこのジョークを使ってみたところ、全員が大いに笑ってくれて気を良くしたものである。その時は私の講演が終わるや否や、聴衆の全員が立ち上がって惜しみなく暫く拍手を続けてくれた。所謂スタンディング・オウベイションで大いに気を良くしたものであった。このユーモアを日本で講演する時、一度試しに日本語に訳して、話してみたが誰も笑ってくれなかつた。皆、しかめっ面をして全く反応がなかつた。国民性の相違であろう。

国際会議は何処でも、そうであるが、講師が講演を終えると、必ず質疑応答が行われる。今回もそうであった。今回は会場の正面の第1列席が講師の控え席になつてゐたが、この席の中央に何時も陣取つてゐる、どっかりと体格のよい講師がいた。

フィンランド大学のタイガーステット教授である。彼は誰かの講演が終わると、必ず立ち上がってマイクもいらない様な大声で質問を発する。私の講演の後でも



港近くのベルゲンの街並み

同様であった。

處で、この人の名を耳にして、何かを思い出される古い会員の方々もおられるのではないだろうか。もう30年位前のことになると思うが、私は会報に、韓国のウルルン島で、フィンランドのタイガーステット博士が、大変な耐寒性のハクサン・シャクナゲを発見し、その名を *R.brachycarpum* (ブラッキーカーパム)f.tigerstedtii(タイガーステッティーアイ)と名づけたことを報告させて頂いた。前記のタイガーステット教授は、この人の子息なのである。

このシンポジュームのプログラムを見た時、一つ驚いたことがあった。第1日は受付が 8:00 ~ 10:00 となつていて、正式の開会は 10:00 からであった。第2日は開催が 9:00、私はこの第2日の最初の講師であった。この辺のプログラムは、よく普通にあることである。ところが驚いたことには、何れの日も、夕食は 18:30~24:00 となつていてことであった。そして夕食の場所は、ベルゲン市の山の一つの頂上にあるレストランであった。

## 会員投稿 『北欧（ノルディック）ロードデンロン

シンポジュームに参加して』（その8）熊谷市 鈴木 英雄

頂上まではケーブル・カーで簡単に辿り着けるし、その降りたところにレストランがある。

又その周辺は小さな公園の様になっており、ベルゲンの町や、それに隣接する港や、フィ

ヨルドが一望

に見渡せて、

まさに快適な

展望台にもな

っている。デ

ィナーにどう

してこんなに

時間がかかる

のかと訝しく

思ったけれど

も、結構いろ

いろなアトラ

クションやス

ピーチなどが

あって知らない間に時間が

過ぎてしまった。

もう一つ



山頂からのベルゲンの街並み

大会についてご報告をしなければならないことがある。それは、見学がシンポジュームのプログラムの中にも織り込まれていたMilde（ミルド）樹木園の見学である。ところが、大会で見学に割り当てられていた時間が余りにも短すぎたので、私と友人夫妻はノルディックの母国語で講演をしそうな、講師達の時間をさぼって別に抜け出し、時間を掛けて見学した。樹木園は広大で、どれ位の広さがあるか、確かめることを失念したけれども、少なくとも100万坪以上はあるであろう。入り口近くには、フィヨルドの湖水が迫っていて砂浜の様になっている。浜辺に来た感じであり快適である。只、園内では車の乗り入れが禁じられているので、私は友人と共に歩いて見学する外なかった。とくにロードデンロンの原種の場所は小高い丘の上にあり、足の悪い身体障害者の私には大変であった。しかし驚いたことには、日本の原種が多数植えられており、私が見学した時には、ムラサキ・ヤシオやレンゲツツジが満開であった。このミルド樹木園に隣接して、公園の様な場所があった。ある日、私は友人夫妻と共に、弁当持参で、その場所へピクニックに出掛けた。そこにはベルゲン大学付属のロック・ガーデンもあって、その斜面には、青いケシなど、ヒマラヤの草花が咲き乱れていた。斯くて2週間余りの私の北欧の旅は終わった。デンマークの友人達が帰途に一週間計り、立ち寄って窓いでいかないかと誘われた。御馳走もする、あちこちも案内すると言ってくれた。けれども、老人の私には、これ以上の旅は、無理だと思って辞退し、帰途についた。途中、乗り換えの待ち時間も含めると成田まで21時間、眠れぬ時間を過ごすことになり、往路の時差ボケと帰路の時差ボケが加わって、その回復に帰国後2週間ばかりを要してしまった。だが興味ある旅であった。（おわり）